第520号

主な記事

・年頭所感　（1面）
・新年特集　（2・3面）
岩手の地産地消エネルギー
・岩手県歯科医師会と懇談
（4面）

岩手県保険医新聞

発行所
岩手県保険医協会
〒020-0034
盛岡市盛岡駅前通15－19
TEL 019-651-7341(代)
FAX 019-651-7374
発行人　南部淑文
https://www.i-hoken-i.org
購読料　年2,400円(〒別)
会員の購読料は会費に含まれています。

冬の一本桜

湿雪で満開となった一本桜
朝日が差し込んで美しい

横澤昭平氏

謹賀新年

年頭所感

岩手県保険医協会
会長　南部淑文

明けましておめでとうございます

東日本大震災被災から10年目を迎える本年、保団連主催第35回「医療研究フォーラム」を、昨年の大阪に引き続き岩手で10月24日(土)・25日(日)と開催します。

テーマは「岩手から日本の医療の明日を考える」としました。高齢者増あるいは高齢化・少子化そして医師の不足・偏在という近来の現象が、岩手では常に都市部に先駆けて起きてきたからです。地元で地域医療の最前線で、長年これらの諸課題に敢然と対応してこられた医師・歯科医師の方々を講師としてお招きし、明るい未来の医療の構築を期します。多数のご参加をお待ちしております。

以上、皆様のご多幸を祈りつつ、フォーラムの案内をもって新年のご挨拶にかえます。

お知らせ

12月28日(土)～1月5日(日)まで協会事務所はお休みさせていただきます。

表1　岩手県における再生可能エネルギー導入想定量と実績

エネルギー種別		【基準年】	【実績】							【導入想定量】
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和2年度
電力利用	太陽光発電	35MW	44MW	63MW	121MW	206MW	330MW	415MW	530MW	638MW	748MW
	風力発電	67MW	67MW	67MW	67MW	67MW	67MW	67MW	93MW	93MW	476MW
	地熱発電	104MW	104MW	104MW	104MW	104MW	104MW	104MW	104MW	111MW	111MW
	水力発電	275MW	275MW	275MW	275MW	276MW	276MW	276MW	276MW	277MW	276MW
	バイオマス発電	2MW	2MW	2MW	2MW	8MW	10MW	43MW	43MW	43MW	41MW
	計	482MW	491MW	510MW	568MW	660MW	787MW	906MW	1,046MW	1,162MW	1,651MW
熱利用		23千kl	24千kl	24千kl	26千kl	28千kl	31千kl	31千kl	31千kl	34千kl	36千kl
再生可能エネルギーによる電力自給率		18.1%	20.1%	16.5%	18.6%	18.9%	21.1%	23.6%	28.0%	29.5%	35.0%

※計の欄は、端数処理のため一致しない場合があります。
注1　「再生可能エネルギー発電設備の導入状況等について」（資源エネルギー庁 R1.7 公表資料）
なお、水力発電は、発電所新設に伴う既設発電所の廃止分を考慮しています。

県ホームページより

熱エネルギーで心も体もぽっかぽか

町内産木質チップで循環型地域熱供給を行う“紫波グリーンエネルギー”

紫波のオガールは全国から多くの視察が訪れるほど注目を集めています。紫波町は、紫波中央駅前の町有地10・7haの都市整備を官民連携で行い、都市と農村の新しい結びつきを創造し、豊かで魅力的な持続的に発展する街を目指した取り組みを行っています。

その一環として、敷地内にエネルギーステーションを設置し、地域内の施設（紫波町役場、保育園、オガールベースなど）や住宅（オガールタウン）に熱供給を行っています。その事業を行っているのが紫波グリーンエネルギー株式会社です。

配管を敷設する工事

日本ではあまり馴染のない「熱供給」ですが、地域一帯に熱を供給するための配管が敷設されており、木質チップを燃料にエネルギーステーションでつくった70℃～75℃の熱水を住宅に送り、住宅内の熱交換器で熱交換させ、暖房や給湯の熱が供給されます。施設には暖房・給湯の他、冷房も供給しています。

オガールタウンで現在、熱供給を受けている住宅は40世帯。熱供給は初期費用（熱交換器・配管引き込み等）がかかりますが、電気料金よりも安い価格設定で価格変動があまりなく、暖房・給湯にかかる電気・ガス代の削減につながり、2019年度まで補助金制度もあったことから、多くの方が熱供給を受けることを決めました。

近くの工場から1日数回、木質チップがトラックで運ばれる

エネルギーステーション

エネルギーステーションでは発電は行わず、町内で生産された木質チップ（約1200トン／年）を主燃料とし、木質バイオマスを使った循環型の地域熱供給を行っています。重油換算で31万リットル／年、CO2削減量773トン／年と、環境に優しく、地域内で経済が回るような仕組みになっています。

紫波グリーンエネルギーは、燃料用チップを安価に紫波町農林公社から購入。燃料用チップのもととなる木材は紫波町内の間伐材や松食虫被害木などです。

岩手にはチップ工場が多くあり、木材資源も豊富な一方、林業に携わる人が少ないことから、月1回、間伐材を運ぶ手伝いをした方に、地域内で使えるクーポン券を渡す取り組みも行っています。オガールタウンの熱供給利用者であれば、クーポン券で給湯・暖房代を支払うことも可能です。

木質チップを燃焼した後の灰は、本来であれば産業廃棄物になるところを肥料に再利用しています。できるだけ化石燃料に頼らず、環境問題に貢献したいと今後は木質バイオマスの多カ所利用を計画しています（「地域ぐるみ」共同プロジェクト）。

エネルギーステーションは熱供給のみですが、今後は「熱＋電気」の小型木質熱電併給を地域で導入する予定です。導入した施設は化石燃料よりも安価に熱を使用でき、循環型社会の構築を実現することができます。

熱供給を受ける施設は、熱電併給のシステムが据え付けられた100平米程度の機械室を建設し、既存の機械室に木質熱源からの熱供給管を接続する必要がありますが、紫波グリーンエネルギーが資金調達を行い、設備管理・運営も行うため、初期費用はなく、熱を買うだけです。万が一熱供給がされない場合は従来通り、既存のボイラーで運営が可能となっています。

法人との長期契約で化石燃料より5％程度割引となり、現在、プロジェクトに参加する公共温泉施設や福祉施設を募っているところです。

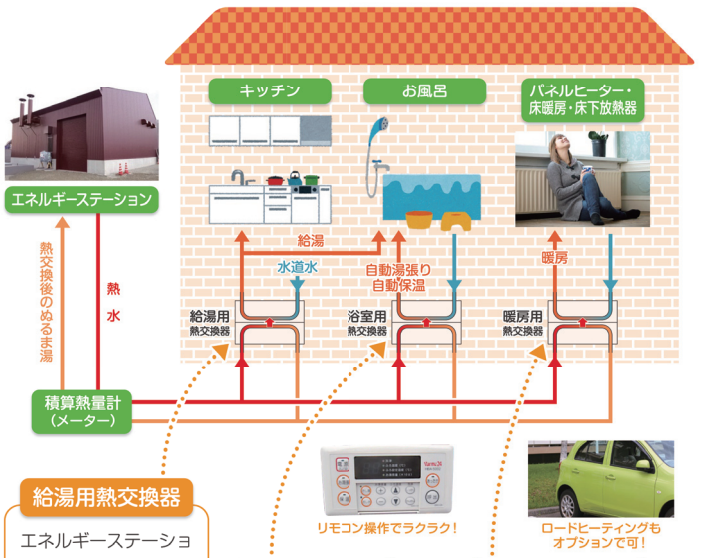
木質バイオマス発電で利用できるのは木材の20～30％と言われており、捨てられていた熱を利用するのは効率的で、海外では熱利用が進められています。紫波グリーンエネルギーは、2020年から熱と電気の両方を供給し、循環型社会を地域に増やしていくことを目指しています。

木質チップはここで燃焼され、温められた水は配管を通り2つのタンクへ

庁舎や保育園へ配管で温水が供給される

エネルギーステーションの仕組み

オガールタウンには、地域一帯に熱を供給するための配管が敷設されています。この配管を通じて、木質チップを燃料にエネルギーステーション（木質チップボイラーなどの設備）でつくった70℃～75℃の熱水を、皆さまの住宅にお送りします。この熱水と住宅の中の水道や暖房回路とを熱交換させ、暖房や給湯の熱を皆さまの住宅に供給します。



給湯用熱交換器
エネルギーステーションからの熱水と水道水を熱交換させ、給湯用のお湯を作ります。給湯能力24号相当のパワーがあり、お風呂のシャワーとキッチンの給湯を同時に使えるなど、4～5人家族でも快適に給湯を利用できます。

浴室用熱交換器
エネルギーステーションからの熱水と浴槽のお湯を熱交換させて、浴槽を保温します。自動お湯張りや追い焚き、足し湯、さし水などにも対応しています。

暖房用熱交換器
エネルギーステーションからの熱水とパネルヒーターなどの暖房回路を熱交換させ、住宅の内部を暖めます。パネルヒーターのほか、床暖房など住宅内に水又は不凍液を循環させるタイプの暖房器具と組み合わせて使用することができます。

2020 新年特集

岩手の地産地消 エネルギー

2011年の東日本大震災以降、電気の使い方、発電方法の見直しが行われ、被災した岩手県も再生可能エネルギーの導入に力を入れています。

2010年度、18.1％だった県内の再生可能エネルギーによる電力自給率は、2018年度には29.5％と、太陽光発電を中心に着実に増えてきています（表1）。県では、2020年度には35.0％になると予想しています。

表2は、岩手県における再生可能エネルギーポテンシャルです。技術的、経済的、社会的、環境的制約要因を考慮した上で取り出すことのできるエネルギー資源量を「推定利用可能量」として算定しており、電力利用が230億6,800万KWh、熱利用が8万klとなっています。

風力、地熱は全国2位、電力計でも2位と、本県は再生可能エネルギーのポテンシャルが高いことがわかります。

県内でも太陽光パネルや風力発電を見かけることが多くなり、2016年4月の電力の自由化で、一般家庭でも大手電力会社だけでなく、新たに参入する電力会社からも電気を契約できるようになりました。

県内では未利用の森林資源を活用した一戸の御所野縄文電力株式会社や大船渡市の五葉山太陽光発電所などがありますが、地域内の経済循環と地域活性化を目指した久慈の「自治体新電力」と紫波の木質バイオマスによる地域熱供給について紹介します。

表2　岩手県における再生可能エネルギーのポテンシャル

	種　類	推定利用可能量（全国）	対全国比	全国順位	推計方法の概要
電力利用（千kWh）	太陽光発電	687,000（65,215,000）	1.1％	29位	住宅、公共施設や未利用地に一定割合で導入した場合の出力での発電量。
	風力発電	20,921,000（223,561,000）	9.4％	2位	地上高80mの風速5.5m/s以上の地域から各種規制地域など一定要件を除き、等間隔に配置した場合の出力での発電量。（洋上風力は除く。）
	地熱発電	1,071,000（6,424,000）	16.7％	2位	「地熱資源密度分布図」から熱資源分布面積を把握し、推計した発電量から各種規制地域など一定要件を除き、算出した発電量。
	中小水力発電	389,000（27,701,000）	1.4％	17位	河川区間に仮想発電所を想定して推計した発電量及び農業用水、上下水で推計した発電量から、各種規制地域など一定要件を除き、算出した発電量。
	電力計	23,068,000（322,901,000）	7.1％	2位	
熱利用（千kl）	熱　計	80（3,138）	2.5％	10位	住宅、公共施設に一定割合で導入した場合の太陽熱熱量。バイオマス、温度差、雪氷の発生量から推計した熱量から、一定規模以上のものを算出した熱量。

県ホームページより

地元を元気に！「アマリンでんき」で久慈の活性化を目指す〝自治体新電力〟※

久慈市では、市外に流出する電気代や燃料代は年間約70億円と試算され、地域内総生産の約7％を占めていました。エネルギー費の地域外流出を減少させ、地域経済循環を進めると共に、エネルギーの地産地消による地域活性化の実現に向けて、民間企業4社（宮城建設、細谷地、ヤマイチ、中塚工務店）で2017年に「久慈地域エネルギー株式会社」を設立しました。

後に久慈市が資本参加し、岩手で初めての久慈地域資本100％の自治体新電力となりました。現在、民間企業1社（ジュークス）が資本参加する事で久慈市と久慈市内に本社を置く民間企業5社により会社を運営しています。

2018年6月から**「アマリンでんき」**（お届けする電気の愛称）の供給を開始し、現在は市内の200を超える公共施設と事業所・一般家庭あわせて711件に電力を供給しています。また、出資企業（ガス販売事業者）との業務提携により「アマリンでんき」とLPガスのお得なセット割引料金プランを設定し、商店や一般家庭など供給先の拡大を進めているところです。

久慈エネルギーの強みは、久慈市の主な公共施設に電力供給をしており、将来に渡って継続的に電力の供給が可能で安心して電気を利用できること。さらに、収益の一部が地域の様々な支援に充てられ、地域の方々に還元されることです。

久慈地域エネルギーの2018年度決算は黒字となり、子育て支援策として市に200万円を寄付しました。

2019年2月には「ゼロカーボンヨコハマ」を目指す横浜市と久慈市が再エネに関する広域連携協定を結びました。久慈地域エネルギーも再エネの調達や横浜市への電力の託送など積極的に久慈市を支援するための協議が進められています。

電力の調達は現在、全て電力卸市場から電力を調達していますが、地産地消に向けた電力を確保していく事が必要となる事から、FIT電源※の特定卸供給などを活用し段階的に地元で発電された電力を確保して行く予定です。また、2020年4月からは久慈市にある滝ダム（水力発電所）から環境にやさしいクリーンな電気（再エネ）を岩手県企業局より供給を受け久慈地域のお客さまにお届けする予定です。

久慈地域エネルギーは、総合エネルギー事業（電気、熱、交通など）を通じ、エネルギーの「地産地消」と「地域内経済循環」による持続可能な地域経済基盤をつくると共に、子どもたちが将来、地元に残りたいと思えるような環境を地域の方々と共に考え整えて行くことを目指しています。

久慈地域エネルギー株式会社事務所の屋根には太陽光パネル

〈久慈地域エネルギー〉

目的・目標

1．自治体の電気料金の削減
2．電気事業収益の地域循環と地域の活性化
3．地産地消（地域内発電供給）
4．地域の電気料金の削減

※自治体新電力

地域内の発電電力を最大限に活用し、主に地域内の公共施設や民間企業、家庭に電力を供給する小売電気事業を「地域新電力」といい、その中で特に自治体が出資するものをいう

※ＦＩＴ電源

Feed-in Tariffs制度＝固定価格買取制度を用いた再生可能エネルギー源（太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス）を活用して売電している電源

紙上作品展

10月19日～20日、盛岡のリリオで第33回保険医作品展を開催しました。その中の作品を一部ご紹介します。

「鴨川河畔」　長澤 茂 氏

「夏の乗鞍岳山頂」　水城 まさみ 氏

「出漁の港」　谷藤 泰寛 氏

「秋の薔薇」　深澤 範子 氏

「街」（粘土）　鈴木 知子 氏

歯科医療について意見交換

一般社団法人岩手県歯科医師会と懇談

11月19日㈫、アートホテル盛岡にて一般社団法人岩手県歯科医師会（以下、県歯と略）と懇談を開催しました。県歯からは佐藤保会長と大黒英貴専務理事が出席され、当会からは南部淑文会長、小山田榮二、黒田康之両副会長、米持武美常任理事、事務局が出席しました。

はじめに当会の小山田副会長より、２０２０年診療報酬改定に向けた保団連歯科改善要求や活動報告を行い、当会活動へのご理解とご協力を求めました。

続いて佐藤県歯会長より、「令和2年度概算要求―歯科保健医療施策の概要―（厚生労働省医政局歯科保健課）」をもとに、①歯科口腔保健・歯科保健医療の充実・強化、②歯科医療分野の情報化の推進、③歯科医師臨床研修関係費、④歯科医療従事者等の資質向上、⑤へき地等における歯科医療確保、⑥歯科医療安全の確保・向上など、来年度の歯科保健医療の予算のポイントについて解説いただきました。

その後、大黒県歯専務理事の乾杯のご発声で会食となり、資料についての質疑や診療報酬改定、審査指導・監査問題、歯科技工士問題、歯科衛生士問題、医科歯科連携、地域医療、歯科健診事業など歯科を取り巻く情勢や諸課題について終始和やかに懇談がなされました。

味処 261

早起きなカフェ
自休自足
一関市

しっとりローストビーフ飯

朝7時からオープンしている青果市場の駐車場内にあるカフェ。定食、パスタ、ハンバーグ、カレーなどの中から店長おすすめ「しっとりローストビーフ飯」（１４８０円）を注文。ランチの時間帯はセルフコーヒーが２５０円とお得。

フレンチトーストや「絵本に出てくるパンケーキ」（３９０円）などデザートも豊富で、思わずパンケーキも追加。

ブルーベリーソースで彩られたお皿にはサラダと温玉、ローストビーフ飯が。ご飯の量（無料で調整）を少な目にしたせいか、お肉の多さにびっくり。低温でしっとりと焼き上げたお肉は旨味が凝縮され、タレも絶品でご飯が進みます。温玉を絡めるとまろやかな味に。

絵本に出てくるパンケーキ

ご飯はきれいな色の古代米でとってもヘルシー。サラダも新鮮です。

パンケーキは４段まで注文可。１枚でも厚みがあります。パンケーキ自体は甘さはあまりなく、バターとメープルシロップをたっぷりかけて食べるのがおすすめです。絵本に出てくるようなかわいくてふわふわ、おいしいパンケーキです。

パン教室から始まったカフェで、店内ではパンの販売も。人気No.１のダブルチーズハンバーグや桃のパンケーキ（要予約）も食べてみたいと思わせる、何度でも通いたいお店です。

※メニューや値段は２０１９年10月時点のもので、変更等ある場合がございます。

一関市樋渡25－1
一印一関青果市場駐車場内
TEL 0191－26－7582
定休日　水曜日
（他、休みの日もあり）
営業時間
平日・土　7：00～15：00
（ラストオーダー14：30）
日・祝　9：00～15：00
（ラストオーダー14：30）
夜は予約